



リスクリングを行うIT企業の経営層・管理職のうち、 半数以上が難しさを認識

IT企業の「リスクリング」に関する調査



レバテック株式会社が運営するITエンジニア・クリエイター専門エージェントレバテック (<https://levtech.jp/>)は、IT企業における経営層から課長までの管理職クラスの社員を対象に、「リスクリング」に関する意識調査を実施しました。今回は企業編・ITエンジニア(正社員)編に分けての発表となり、ITエンジニア編は2月上旬にお届けいたします。

調査の全文はこちらからご覧いただけます。
<https://levtech.jp/partner/guide/research/detail/218/>

<調査サマリ>

1. IT企業の経営層・管理職のうち「リスクリング」を知っている割合は約3割
2. 約6割が「社員へITスキルをリスクリングする必要がある」と回答
3. リスクリングを検討する企業、ネックは「人的リソース」と「ノウハウ」の不足

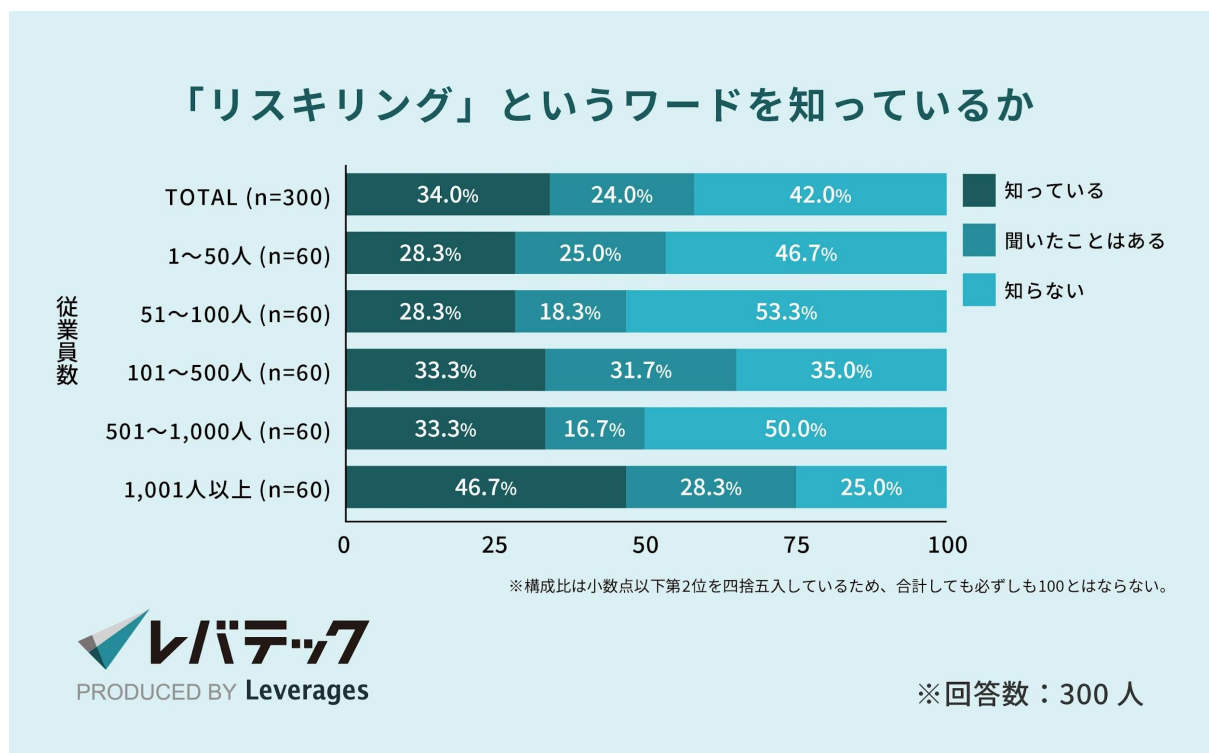
4. 約6割弱が「リスキリング施策を実施する上で難しいと感じた点があった」と回答

1. IT企業の経営層・管理職のうち「リスキリング」を知っている割合は約3割

「リスキリング(※)」というワードに関して、34%の人が「知っている」と回答し、「知らない」と回答した人の割合は42%となりました。

従業員数1001人以上のIT企業に所属する人の中で「知らない」と回答した人の割合は25%に留まり、その他の企業群と比較するとやや認知が高いことがわかりました。ただ、IT企業においても、まだ「リスキリング」という考え方は広まりきっていないと言えます。

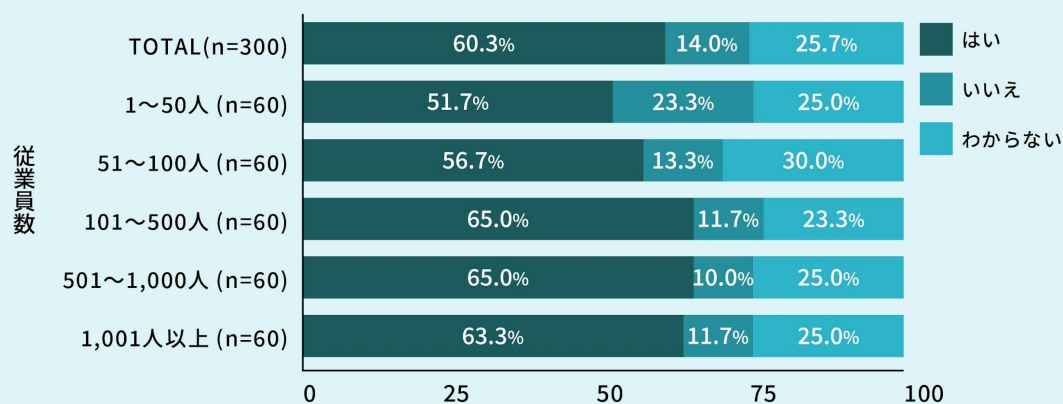
※リスキリングとは新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適應するために、必要なスキルを獲得する／させること(経産省の定義より)。学び直しとも言う。



2. 約6割が「社員へITスキルをリスキリングする必要がある」と回答

ITスキルを社員へリスキリングする必要性を感じている管理職の割合は60.3%となりました。特に従業員数が101名以上の企業で6割を超える結果となり、より必要とされていることがわかりました。

社員へITスキルをリスキングする必要があると考えているか




PRODUCED BY Leverages

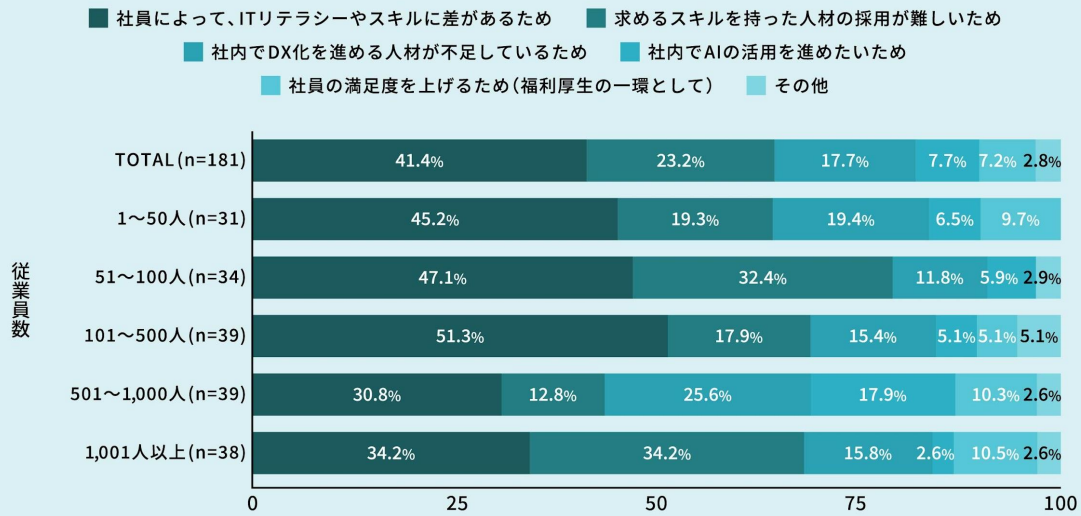
※回答数：300人

「社員へITスキルをリスキングする必要がある」と回答した181名にその理由を聞いたところ、トップ3は「社員によって、ITリテラシーやスキルに差があるため(41.4%)」、「求めるスキルを持った人材の採用が難しいため(23.2%)」、「社内でDX化を進める人材が不足しているため(17.7%)」となりました。

「必要はない」「わからない」と答えた理由として最も多かったのは「どんなスキルを身に付けさせればいいのかわからない(31.1%)」でした。

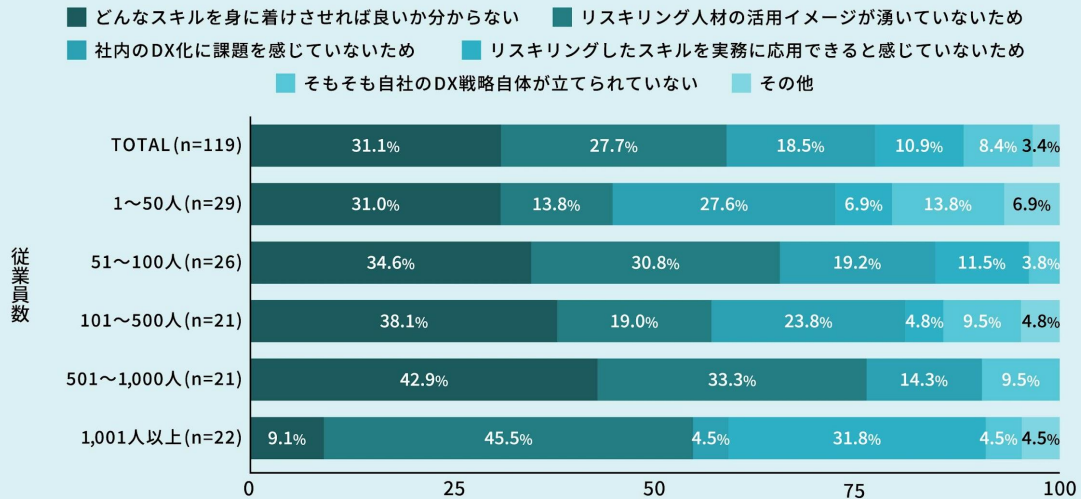
デジタル化・DX化を進める人材が不足している一方で、既存社員へどのようなスキルを身に付けさせればいいのかわからないという悩みを抱えている企業も多いのではないのでしょうか。

社員へITスキルをリスキングする必要があると考える理由



※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

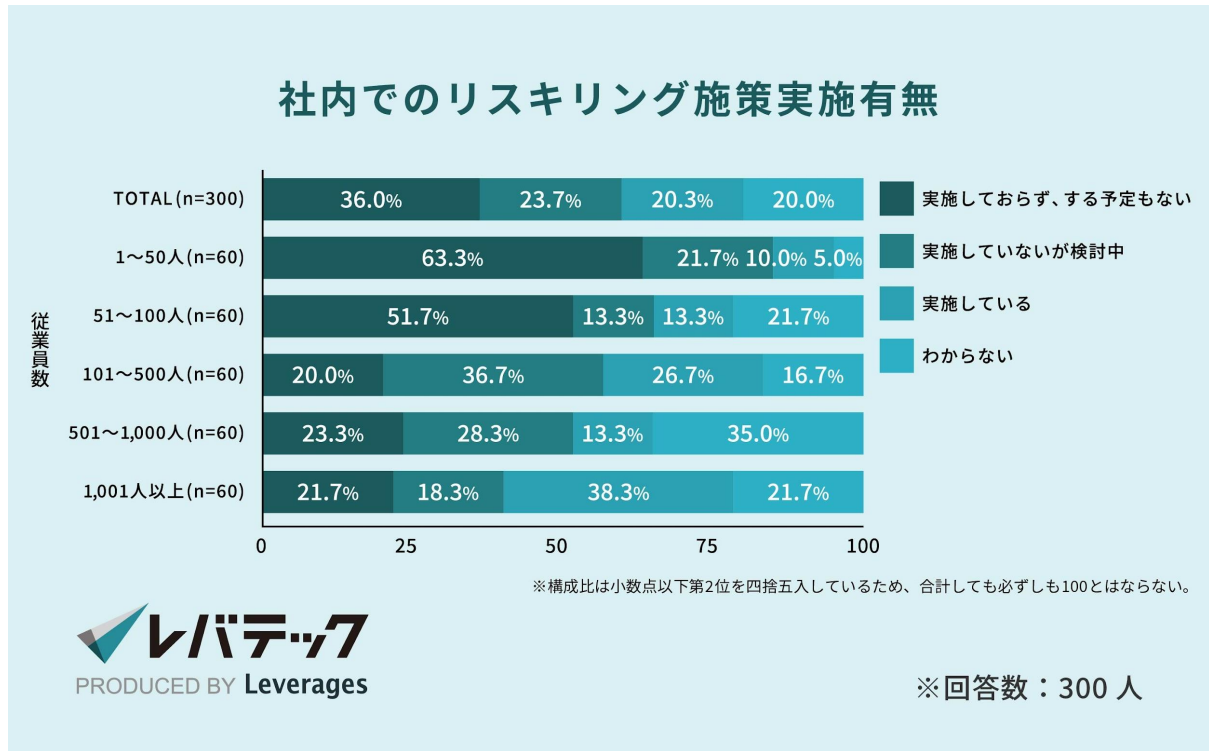
社員へITスキルをリスキングする必要があると回答しなかった理由



※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

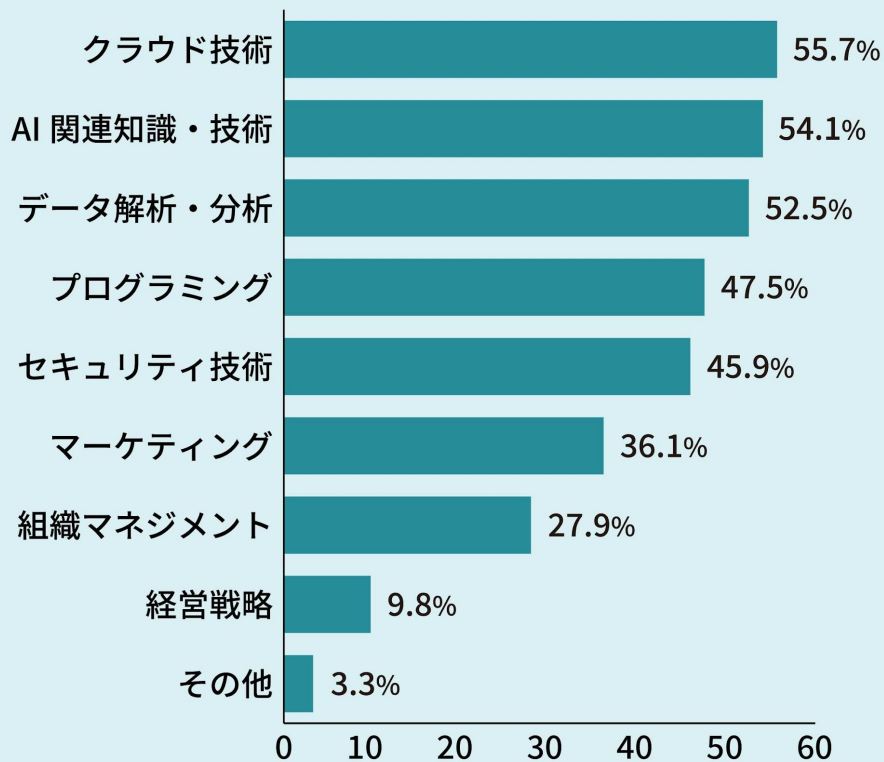
3. リスキリングを検討する企業、ネックは「人的リソース」と「ノウハウ」の不足

リスキリング施策を現在実施しているIT企業は20.3%に留まり、「実施しておらず、する予定も無い」と回答した人の割合が36%で最も高いという結果になりました。対象とするスキルは「クラウド技術(55.7%)」「データ解析・分析(52.5%)」「AI関連知識・技術(54.1%)」などが多く、社内研修で実施する企業が大半を占めています。



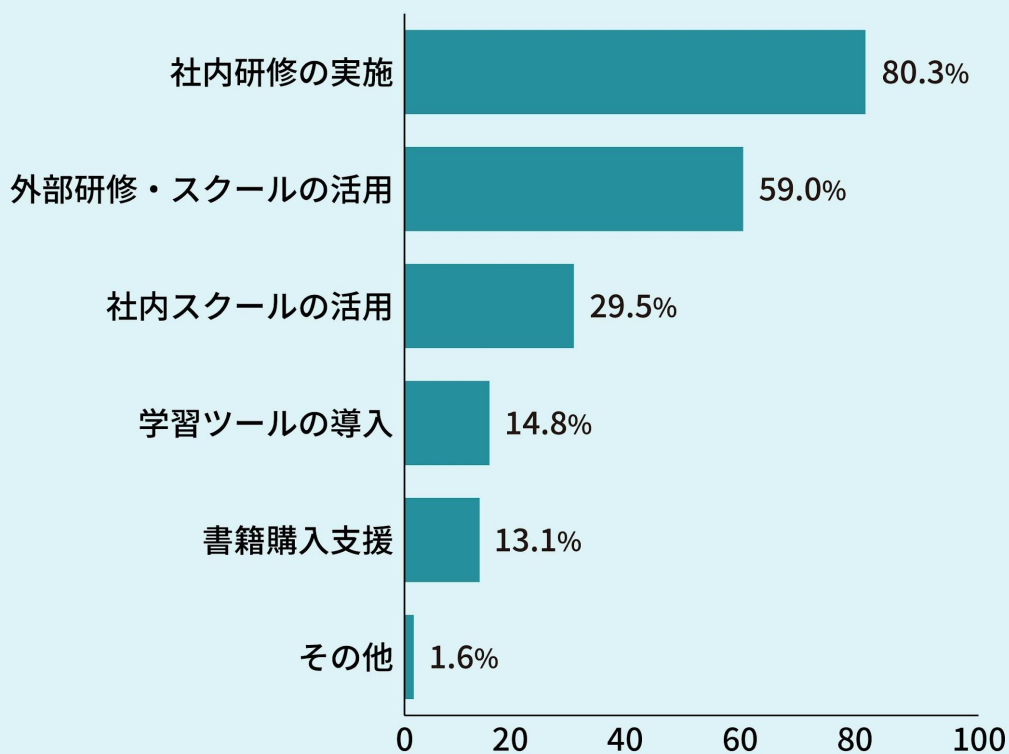
リスクリング対象スキル（複数回答）

※社内でリスクリング施策を実施していると回答した人



リスクリング施策実施手段（複数回答）

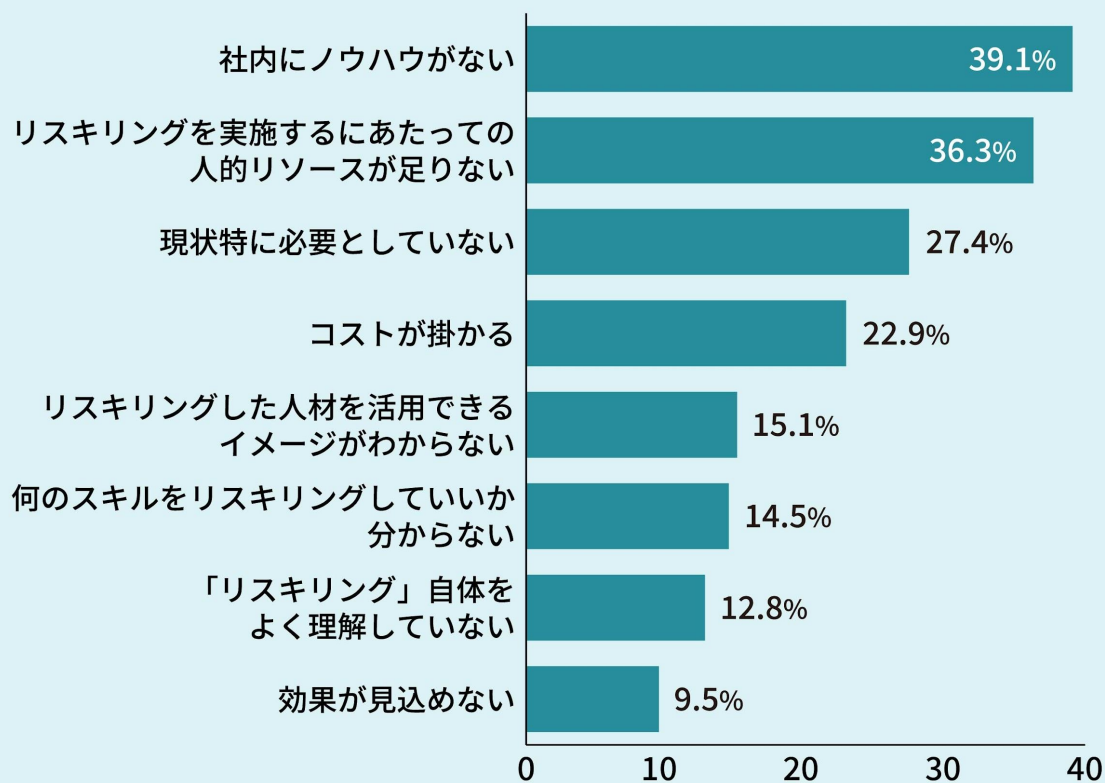
※社内でリスクリング対策を実施していると回答した人



リスクリング施策を「実施しておらず、する予定も無い」と答えた理由として最も多かったのは「現状特に必要としていない(40.7%)」となりました。「実施していないが検討中」と答えた理由には、「リスクリングを実施するにあたっての人的リソースが足りない(52.1%)」「社内にノウハウがない(52.1%)」があげられています。

国としては、資金面の補助だけでなく、ひと(リソース)や情報(ノウハウ)の提供を併せて行う必要もありそうです。

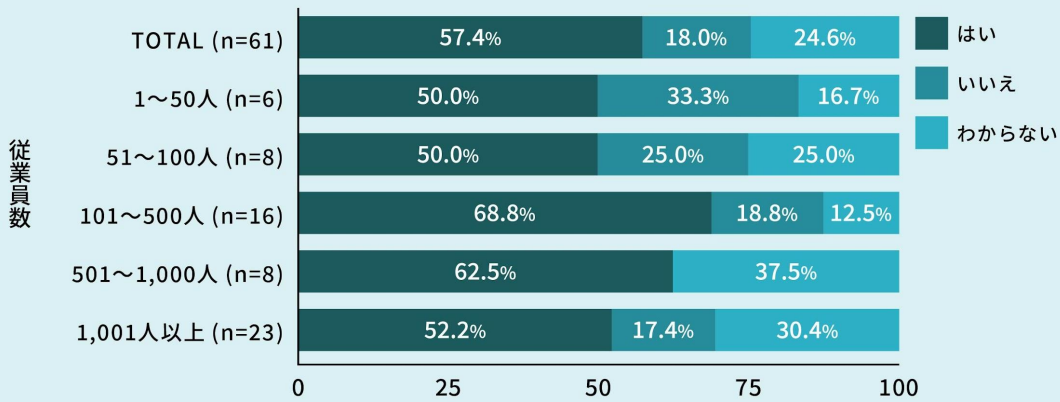
社内でリスクリング施策を実施していない理由（最大3つまで）



4. 約6割弱が「リスクリング施策を実施する上で難しいと感じた点があった」と回答

「リスクリング施策を実施する上で難しいと感じた点があった」と回答した人の割合は、57.4%に上りました。

リスクリング施策を行う上で難しい点があったか



※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

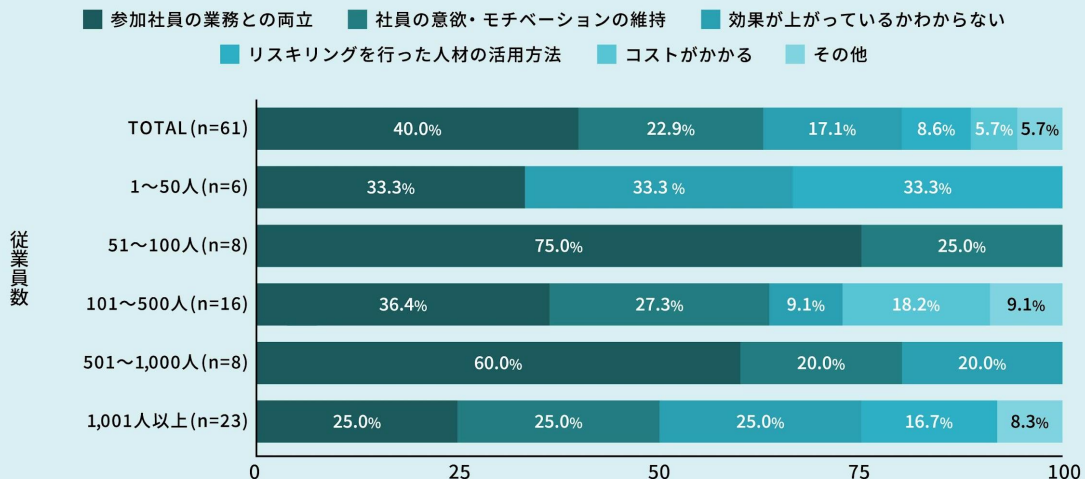


※回答数：61人

最も難しいと感じた点では「参加社員の業務との両立(40%)」が最も多く、次いで「社員の意欲・モチベーションの維持(22.9%)」となりました。

リスクリングを成功させるには、長期的な利益を重視して、既存の業務を削減するという投資を行うことなども含め検討していく必要があります。

最も難しいと感じた点



※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。



※回答数：61人

<調査概要>

調査対象: IT企業の経営層・役員・部長・課長クラス 300名

調査年月: 2022年12月26日～2022年12月27日

調査方法: Webアンケート調査

有効回答数: 300名

調査主体: レバテック株式会社

実査委託先: 楽天インサイト株式会社

レバテック株式会社

レバテック株式会社では、「IT業界のエンジニア・クリエイターの人生に寄り添う」をミッションに掲げ、Web・IT業界のエンジニアと企業を繋ぐSES(システム・エンジニアリング・サービス)事業を展開しています。現在は業界最大手のフリーランスエンジニア専門エージェント「レバテックフリーランス」ほか、転職エージェント「レバテックキャリア」など、エンジニア・クリエイターのキャリアアップのための様々なサービスを提供。累計登録者は30万人を超えます。



▽「レバテックフリーランス」フリーランスエンジニア専門エージェント

<https://freelance.levtech.jp/>

▽「レバテッククリエイター」フリーランスクリエイター専門エージェント

<https://creator.levtech.jp/>

▽「レバテックダイレクト」ITエンジニア・クリエイター専門求人サイト

<https://levtech-direct.jp/>

▽「レバテックキャリア」エンジニア/クリエイター専門の転職支援

<https://career.levtech.jp/>

▽「レバテックエキスパート」年収800万円以上のハイクラスエンジニアの転職支援

<https://career.levtech.jp/expert/>

▽「レバテックルーキー」エンジニアに特化した新卒向け就職支援エージェント

<https://rookie.levtech.jp/>

▽「レバテックカレッジ」大学生・大学院生対象エンジニア就活特化のプログラミングスクール

<https://rookie.levtech.jp/college/>

Leverages Group

社会の課題を解決し関係者全員の幸福を追求し続けることをミッションに、インターネットメディア・人材・システムエンジニアリング・M&A・不動産の領域で国や業界をまたいだ問題解決を行なっています。2005年に創業以来、黒字経営を継続し2021年度は年商649億を突破しました。各分野のスペシャリストが集うオールインハウスの組織構成と、業界を絞らないポートフォリオ経営で、時代を代表するグローバル企業を目指します。

本社所在地：〒150-6190 東京都渋谷区渋谷2-24-12

渋谷スクランブルスクエア24階 25階

代表取締役：岩槻知秀

資本金：5,000万円

設立：2005年4月

事業内容：自社メディア事業、人材関連事業、システムエンジニアリング事業
M&Aコンサルティング事業/ ASP/SaaS/クラウド関連事業

URL：<http://leverages.jp/>

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ
レバレッジズ株式会社 広報部
TEL: 03-5774-2900 MAIL: pr@leverages.jp